朝日新聞（夕刊

濱田あや「チェンバロ劇場」

超絶技巧から繊細な色彩感まで、豊かな表現力を持つチェンバロ奏者の濱田あやが8日、大阪市北区のザ・フェニックスホールでリサイタルを開く。

兵庫県芦屋市出身でニューヨーク在住。ピアノを学んでいたが、アメリカの名門ジュリアード音楽院に入学したのを機に、チェンバロに専念した。「もともとバロック音楽が好き。チェンバロで弾いたバッハやラモーの曲がいきいきと輝く世界を知り、ピアノに戻れなくなってしまった」

今回の軸はオペラや管弦楽曲の編曲版。多彩な演目はさながら「チェンバロ劇場」のようだ。なかでも17世紀のフランスでルイ14世の寵愛（ちょうあい）を受けたリュリの叙情悲劇「アルミード」からの「序曲」は、濱田が初めて編曲したもので、当時の宮廷やサロンの演奏慣習にならったという。

バッハの「シャコンヌ」は、フランスのチェンバロ奏者スキップ・センペの即興演奏のCDを採譜。本人の前で演奏しながら11分の楽曲に完成させた。「サロンにいるようにくつろいで聴いて頂きたい」

午後3時開演。当日一般4千円。ザ・フェニックスホール（06・6363・7999）。（谷辺晃子）